

## 「幸いな人の歩み」

詩篇 119:1-8

## 【1】幸いを問う

今日のみことばは、私たちに「幸い」とは何かを教えている。詩篇においてしばしば「幸いなことよ」ということばから始まるものがあるが、旧約聖書の中では「幸いだ」と語られている箇所が44箇所ある。そして、「幸い」とは神との関係において健やかな者が幸いであると教えられている。特に詩篇はその第1篇から「幸いなことよ」と始まるのである（詩篇 1:1-3）。この幸いとは、神からの祝福が自分に関わるようになる、ということである。

実のところ私たちは、私たちの命の基であるお方を離れていては幸いどころか、いつまでも満たされることがなく、自分自身の価値も失われてしまっているのである（ルカ 15:8-10 参照）。私たちは、私たちを創造し、愛してくださる神を離れて本当の意味で幸いを得ることはできないのである。神だけが私たちの全てをご存知で、私たちの真の喜びと満足とを与えることのできるお方である。また、どんなことにも揺るぐことのない確信と平安を与えることができる、絶対的なお方なのである。

## 【2】全き道を歩む

だからこの詩篇は全き道を行く人々、主のみおしえによって歩む人々は幸いであると言うのである。「全き道」とは完全な生涯のことである。しかし、この完全ということばは神のみが語り得ることである。私たちの生涯は決して完全なものではない。義人はいないのである。では、どうして全き道を私たちが歩むことができるのだろうか。

この「全き道」とは、神ご自身が導かれる道、神に導かれて歩む生涯のことである。すなわち、私たちが完全になって生きるということではなく、完全な神のことばによって生きる生涯ということである。それは神のみおしえに導かれて生きる生涯である。神がそのように私たちの歩みを導き、祝福してくださるのである。注目すべきは、「主のみおしえ」なのである。

## 【3】みおしえに従う

「主のみおしえ」とは、律法（トーラー）のことである。このみおしえについては2節「主のさとし」、3節「主の道」、4節「あなたの戒め」、5節「あなたのおきて」、6節「あなたのすべての仰せ」、7節「あなたの義のさばき」、8節「あなたのおきて」と繰り返して言い換えられている。これらはすべて主なる神の主権によって語られたことばであることがわかる。それゆえにこの教えが私たちを幸いへと、そして救いへと導くのである。人間にとって不可欠なものなのである。この「みおしえ」を欠いてしまったら私たちは命を失ってしまうのである。詩篇第1篇では、このみおしえを喜びとする者は流れのほとりに植えられた木に例えられている。

私たちの救いは律法がもたらすものではない。確かに律法は救いの手段ではない。しかし、神は今や聖霊によって私たちの内にこのみことばに従うことができるようにしてくださっているのである（ローマ 7:6）。だからこそ詩篇は神のみおしえを喜びとしてうたっている。神の戒め、おきて、義のさばきに感謝をしている。神のことばこそ、真に私たちに幸いを与える。それは、従うものが味わう幸いである。